

北欧ケーススタディーツアー 事前視察結果

～スウェーデンにおける成人教育・生涯学習～

北欧ケーススタディツアーに係るポイント

1 地方自治体による人材ニーズの把握と、ニーズに応じた教育内容のアレンジ（成人教育機関、職業大学）

- 全ての基礎自治体は成人教育を提供することが義務付けられている。基礎自治体は、地元企業のニーズやトレンドについて、詳細に把握をしている。そして、ニーズやトレンドに応じた人材となることができるように、各地方自治体が実施する成人教育において、カリキュラムを編成し、地元企業などでのインターン等も実施している。結果として、地元企業において即戦力となる人材を地元から輩出することが可能となっている。
- 全国的なニーズのある高度な技術や能力の習得については、国から認可された職業大学において、学習する機会が提供されている。職業大学には、定期的に、地元の商業ニーズについて把握することが求められる。
- 日本の地方自治体にとっては、いかに地元企業のニーズやトレンドを詳細に把握し、教育内容に反映して地元雇用に繋げていくことができるのかの示唆となる。

2 誰でも何時でも教育にアクセスできる機会の保障（成人教育機関、国民大学）

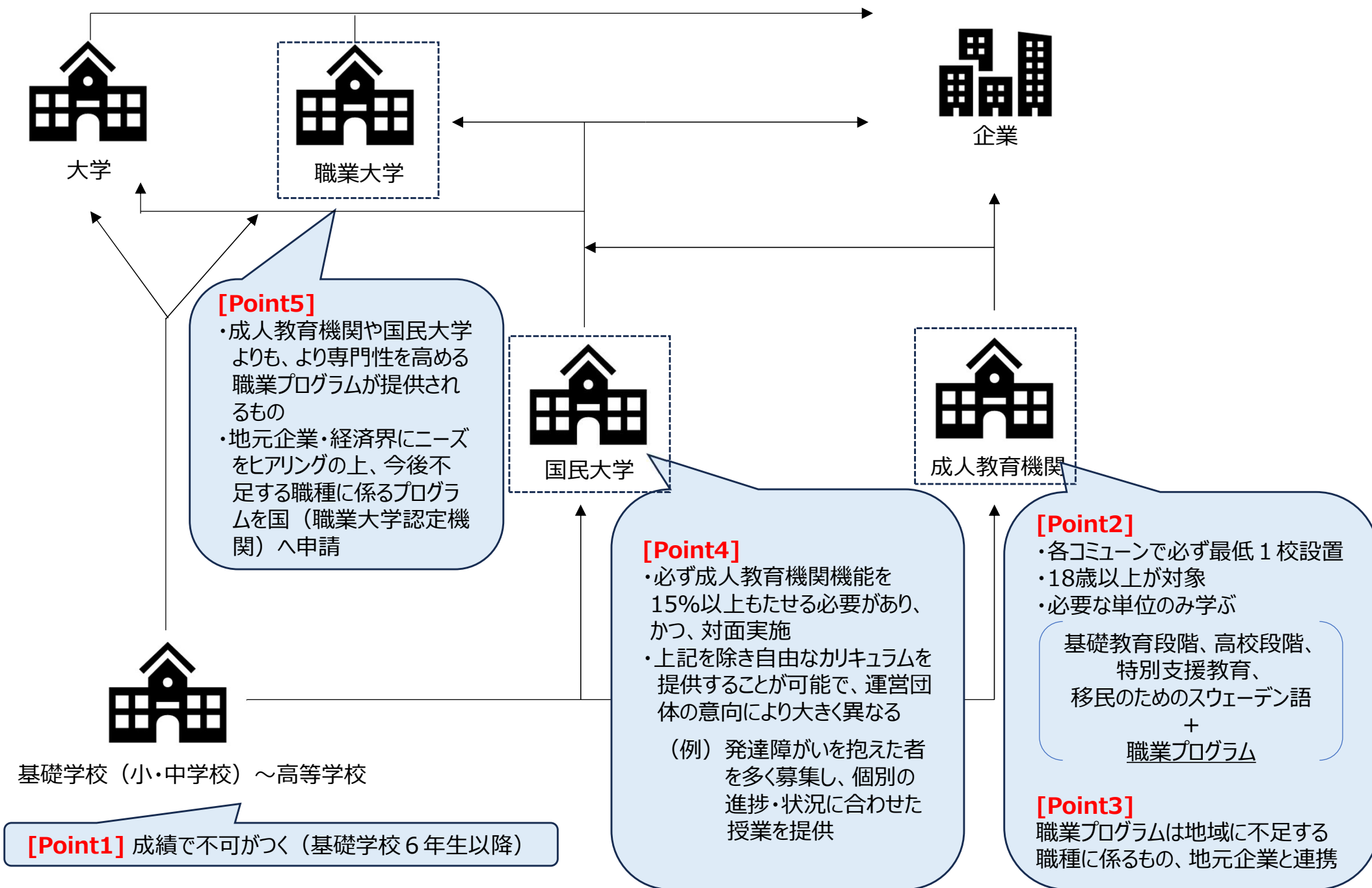
- 基礎学校や高等学校において、学習が十分にできなかった科目について、成人教育機関において学び直しができるほか、スウェーデン語を母語としない者に対してスウェーデン語教育を提供し、社会参加を促している。
- 基礎学校、高等学校、成人教育機関の授業に参加できなかつたり、理解を深めることができなかつたりした人に対して、国民大学において、個々のニーズや学習状況に応じて教育を提供する。
- 大人の学習や教育について、仕事に直結する実務的な内容や高度な内容を学習することに限定することなく、学び続けることに価値が置かれており、リカレント教育の在り方を考える際の参考となる。

3 自発性と共同性を重視した芸術文化活動の推進（カルチャーセンター）

- 学校等が事前にコースや内容を設定するのではなく、学びたいことを住民が提案する。三人以上が参加することが助成の条件となっている。また、対象は文化芸術活動となっており、スポーツは除外されている。
- 自分の好きなことを通じて他者と交流する機会が促進されている。このような機会は、孤独化の対策、普段交流しない世代やグループとの対話を通じた社会統合など、地方自治体が抱える課題に対する解決策の一つとなり得る。

スウェーデンにおける 成人教育について

スウェーデンにおける成人教育イメージについて



成人教育機関と国民大学（成人教育機関分）の違いについて

○ 団体によって内容が異なる可能性があることから、以下内容は一例

区分	成人教育機関	国民大学 (成人教育機関分)	区分	成人教育機関	国民大学 (成人教育機関分)
自治体設置義務	各コミュニティで必ず1校以上設置	-	受講科目	自身に不足する単位・教科に絞って受講	複数教科をグループで学ぶことが多い
運営主体	コミュニティ(基礎自治体) or 民間等	レギオン(広域行政体) or 非営利団体	受講期間	短期間 (1教科、10週間等)	長期間 (1年間以上)
対象年齢	18歳以上	18歳以上	成績	あり	なし (社会的な評価のみ)
プログラム	①基礎教育段階、②高校段階、③特別支援教育、④移民のためのスウェーデン語、⑤職業プログラム(地域に不足する職種に係るもの、地元企業と連携。加えて、例えば移民のためのスウェーデン語等の他のカリキュラムと組合わせて提供することが可能)	運営団体によって異なる	授業料	無料 (保険、コピー代等は別にかかる)	無料 (寮費等は別にかかる)
カリキュラム	学校庁の指針に基づく	運営団体の理念等に基づき裁量がある	近年動向	-	現在国においてオンラインによる授業提供の是非を議論
受講方法	対面 or オンライン	対面			

成人教育機関（職業プログラム分）と職業大学の違いについて

○ 団体によって内容が異なる可能性があることから、以下内容は一例

区分	成人教育機関 (職業プログラム分)	職業大学	区分	成人教育機関 (職業プログラム分)	職業大学
自治体設置義務	各コミュニティで必ず1校以上設置	-	授業料	無料 (保険、コピー代等は別にかかる)	学校・プログラムによる
運営主体	コミュニティ(基礎自治体) or 民間等	コミュニティ(基礎自治体) or 民間等	近年動向	職業プログラムについて、新たに、最低3か所のコミュニティが連携してプログラムを提供することとなった。	-
対象年齢	18歳以上	18歳以上 (高校資格保有者、なお社会人経験を重視し資格がなくても入学できる場合あり)			
プログラム	地域に不足する職種に係るもの 地元企業と連携しプログラムを提供 加えて、例えば移民のためのスウェーデン語等の他のカリキュラムと組合わせて提供することが可能	国全体で不足する職種に係るもの 地元企業・経済界にニーズをヒアリングの上、今後不足する職種に係るプログラムを国へ申請 国全体で不足する職種を考慮の上、プログラムが決定される			
取得資格	SEQF4 (※)	SEQF5 (※)			

※スウェーデンにおける教育資格等を示すものでSEQF4よりも、SEQF5の方が資格のレベルが高い

その他参考

(成人教育機関を運営している自治体への主なヒアリング内容)

[A自治体]

- 当該団体の労働市場課において、成人教育を取り扱っている。このほか、労働関係、移民・難民について取り扱っている。労働市場課の目的は、人々が学ぶこと、そしてその学びを生かして仕事をする。ひいては失業率を下げる
- 成人教育機関には毎年50,000人の生徒が通っており、その約半数が通信教育により学んだ。生徒の男女比は、60%が女性で40%が男性となっている。基礎教育段階においては、生徒全体のうち95%が移民・難民の背景を持つ。また、現時点では、全体の80%を委託、20%を当該自治体が運営している。なお、提供される全ての教育は無償。
- アウトリーチの活動も実施しており、比較的低学歴の人たちが多い地域の図書館や公民館などに出向き、相談に乗り、必要に応じて成人教育を受けられる成人教育センターにつなげるなど支援している。各地域に成人教育センターの事務所があり、気軽に人々が来てくれるような話しやすい環境をつくっていくことが学びの機会につながっていくと考える。
- 経済界が作成したとある基礎資料によれば、10社のうち8社が、必要とした知識を持つ人材を見つけ、採用することが困難だとしている。特に、高校卒業レベルの知識を持つ人材が不足しているとのことで、ここからも成人教育の重要性が分かる。
- 新たな職業コースを開設する場合には、必ずその分野に関わる人々や企業の人々と話し合い、地域でのニーズの見極めを行う。その地域にとって新たなコースがどのように役立つか検討する。例えば、運輸業界から「最近バスが電化しているためそれに関連した知識を持つ人材が必要だ」という意見があり、新たなコースに電気に関する知識を入れるべきことが分かった。
- 加えて、新たな職業コースを生み出すときには、各業界の人々と話し合い、高等教育レベルや職業大学レベルなどの段階の知識が必要かまで検討する。(成人教育機関の職業コースか、またはスウェーデン語教育と併せた職業コースか、それとも職業大学か) や教育形態 (フルタイム、パートタイム、または通信教育が可能かなど)、生徒数などについて検討を重ねることとなる。
- スウェーデン語と併せた職業プログラムの例では、スーパーなど販売系の職業コースやコックのコースが新設された。
- 学習の品質保証については、直営・委託に関わらず当該自治体で実施する。同じ品質の教育を提供すること、高品質の教育を提供すること、予算がきちんと使用目的で利用されているかなどを確認している。毎年契約先と面談を行い、その結果を基に、契約先で適宜改善してもらう。

その他参考

(成人教育機関を運営している自治体への主なヒアリング内容)

[B自治体]

- 当自治体の成人教育機関には、現在約1,000人程度が通っている。
- 生徒には、何らかの援助を必要とする人が多い。高校を卒業していなかったり、卒業したけれども十分に学びきれなかった人などいる。高校卒業資格を取りに来る人や、移民・難民、大学に入るために足りない教科を学び直す大人もいる。そのほか、読み書きが難しかったり発達障がいを抱えている人もいる。
- 成人教育機関には55人勤務しており、大半が教員である。そのほか、学校を組織する校長や教頭にはじまり、進路指導の先生、事務、特別教育の先生がいる。
- 通信教育も行っており、通信教育は、直営の部分と他から購入している部分もある。
- スウェーデン語と職業パックを組み合わせたコースに通う生徒は多い。職業とスウェーデン語を一緒に学ぶことは簡単ではなく、綿密な計画が必要
- コースは2つあり、看護・介護系と教育系に分けられる。職業としては、看護師、介護士、保育士、教師の4つとなる。生徒らはコースを2年又は2年半受講する。生徒数は全体で116名、内訳は看護・介護系に41名と残り75名が教育系である。
- スウェーデン語と職業パックを組み合わせたコースができた経緯は、次の3つ。1つ目は、看護・介護系と教育系の職業は労働市場で不足している人材であったこと、2つ目は、職業にすぐに就くことが難しい移民の方々を考慮したこと、3つ目は、職業に就くという明確な目標があれば、それがモチベーションになり、はやく言語が習得できると考えられたこと。講義の際は、職業の先生と言語の先生が一緒になって教える。
- 実習について、保育士は、週1回は保育園で勤務することになっており、それに加えてコースの在籍期間中に3週間の実習を3回行う。また、介護士については、老人ホームや訪問介護、病院、障がい者施設などのいずれかで4週間の実習を行う。
- 成人教育機関内に2か所の学びのセンターがある。1か所はPCが置いてあり、各々で学習できる。もう1か所では、話すことやコミュニケーションを目的にしており、PCやヘッドフォン貸し出しているほか、言語サポートの職員がサポート

その他参考

(成人教育機関・職業大学を一体的に運営している団体への主なヒアリング内容)

[C団体]

- 民営の教育サービス会社の一部で、幼児教育、基礎教育、高等教育、成人教育の教育サービスを提供
- 大きな目標は2つある。1つ目は、学びによってその人の新しい人生を切り開くこと。2つ目は、社会で必要とされている職業に就く人材を養成することである。個人的視点からの目標、社会的視点からの目標、いずれも達成することが我々の目標
- 毎年7万人の人々が学んでいる。いつでも、どこでも、どのような期間でも柔軟に学ぶことができる。ほとんどのコースが通信教育だが、個人に合った教育を提供する目的で、ハイブリットによる形式も可能となっている。
- 生徒の年齢層は、30～35歳が多い。この年齢層は、子どもがいたりしてとても忙しい。子育てと学びを両立してもらうために、柔軟な学びというのは非常に重要である。
- 成人教育機関について、一つ又は複数の自治体とお互いに合意の上契約書を結ぶ。各自治体で入札を行い、契約先の学校を選定する。
- 当該団体の成人教育機関では、移民のためのスウェーデン語、高等学校教育、職業コースがある。なお、移民のためのスウェーデン語は、以前と比較してだいぶ割合は減ったが、現在でも成人教育の大部分を占めている。スウェーデンでは、職に就いていることが非常に重要。スウェーデンに住んで働くとなれば、安全確保や意思疎通のために必ずスウェーデン語が求められる。仕事をするうえで、スウェーデン語を学ぶことは重要。また、職業プログラムでは、経済界や社会で不足していると思われる仕事のコースをつくるようにしている。
- 職業大学においても、ハイブリット形式で授業を行っており、教室で学ぶか、その授業をライブ配信して受講するか選ぶことができる。ただし、通信教育がメインといっても実際に対面で行った方がよい内容もあるため、その場合は生徒たちに学校に来てもらうようになる。
- CSN (Centrala studiestödsnämnden/中央学生金融委員会) という機関があり、生徒らはこの機関に申請することによって経済的な支援を受けられる。申請は、19～63歳までの学習者が対象となっている。この機関が、学習者に対して低利子で貸出をしており、一部の支援金は返済不要である。
- スウェーデンでは、勤務時間のうち80%働いて、20%学習の場を設ける場合があり、この場合であっても給与の全部又は一部が保障される。金銭的支援を受けなくとも学習ができるのは大きい。

その他参考

(成人教育機関・職業大学等を一体的に運営している自治体への主なヒアリング内容)

[D団体]

- 当該コミュニティの大学教育修了率は18%であり、近隣のコミュニティと比較してとても低い数値。このことから、自分の住んでいるコミュニティで高等教育を受けてもらい、基盤を整え直したいということから学びのセンターを創設した。
- 公立機関で、コミュニティの部署の中の、労働経済部門の一部に位置付けられており、当該センターで、成人教育機関、職業大学、大学等のプログラムを受けられる。(一つのセンターで成人教育機関から大学レベルの教育を行えるようにしているのは、スウェーデン内でもここだけではないか。)
- その人の人生の時によって学ぶ形態を変えることができ、色んな形で学べることは、生涯教育という観点において、また、学びの保障という点でもとてもよい形だと考えている。
- 2019年までは昔ながらの伝統的な成人教育機関であり目立たなかったがマーケティングの仕方等を変えることで、同年の途中から生徒数増加。2020年では、600人だったが1500人へ。平均は34歳平均で、女性が多い。
- コースの増加が人数増加の大きな要因の一つ。企業との結びつき、常にコンタクトを取ることが重要。実際に、経済界でどんな職業が必要なのかということを見極めていく仕事が必要。連携を取りながらコースが作られていく。常に企業を訪問して、現在の労働市場において、企業が長期的・短期的にどんなことが必要かを聞き取る部署がある。
- 募集に当たっては、マーケティングの仕方も変えた。世の中にある固定観念(女性は看護師になるべきだ等)をいかに変えていくかが大事になってくる。技術者であればどのように女性を呼び込むのか。大人になってからの学びは誇りをもってよい。得た学びによって、経済的なことにも繋がり、必ず仕事があることが保証された学びであって、新しい仕事にもつなげられる。そのことにもっと誇りを持つというキャッチコピー。
- また、最も重要な対象者は、ビジネス界(企業・雇用業界)や公的機関。企業に話を聞くと、募集している職種に就く知識をもった人を見つけることが難しいという話をよく聞く。適切な人材を見つけることが難しいから企業が成長できないという回答をよく受ける。
- ここで学んだ人たちの最終的な目標は、経済的に自立して生活してもらうこと。経済会・公的機関が元々の対象者であり、必要な人材を教育していく。それによって知識を身に付け、自立してもらう。

その他参考（国民大学に係る主なヒアリング内容）

[E校]

- 運営団体は宗教系。必ず設けることとなっている成人教育機関に係るコース（一般コース）に加えて、複数の特別コースがある。
- 当該校の一般コースは、スウェーデン語、英語、数学、社会、理科、宗教を取ることがマスト。また、対面出席して、学んだということが条件であり、教科を学ぶことと、出席（対面）することの両方が卒業要件。
- スウェーデン語を母語にする方たち向けのコースでは、90%の方が何かしらの障がいを抱えている方。個人の学びの状況に応じてカリキュラムを柔軟に変えており、今まで取ってきた単位があれば、それを考慮して、その人にあわせてプランを立てる。生徒は80人いて、スタディプランは80通りある。例えば、数学ができない場合は、社会は来学期に回して、数学を長く勉強してもらうようなプランに変える。職員間でコミュニケーションの必要があり、大変だが、一人ひとりに合ったスタディプランをたてることは非常に重要。何かしら発達障がいを抱えている子が多く集まると、今までは恥ずかしいと感じることがあっても、安心できたり、楽になったりする。また、お互いのことも理解しやすくなる。
- 特別コースについては、就職するためのコースと、大学進学予備コース、仕事・労働生活コースがある。
- 就職するためのコースは、デジタル音楽コース（音楽の基礎に関するものや、歌詞などを作るもの）がある。
- 大学進学予備コースとして、アンサンブルコースや芸術（絵画・陶芸）コースがあり、都心にある音楽大学や専門的な芸術大学に進学するためのコースがある。高校卒業後に直接大学に行けるほどの能力がない子は一度国民大学で学んでから進学する人も珍しくない。大学に行かずに学ぶことだけを目的としている人もいる。
- 仕事、労働生活コースでは、自閉症の方を対象にしたコースがあり、自分の障がいを学んでどう生きていくかというテクニック、労働生活や、労働することなどを学び、実習（学期に5週間）がある。
- 多くの生徒は大学を家だと感じており、居場所をやっと見つけた、とよく発言する。約1/3の生徒が寮に住んでおり、寮にはジムがあったり、野外ではスキーを楽しめる。そのほか、食堂に集まってご飯を食べるなど一緒にいることが多いため、多くの生徒たちがここを居場所だと感じているのではないかと。

その他参考（国民大学に係る主なヒアリング内容）

[F校]

- 国民大学で提供される学びは、単に教科を学ぶといったものではなく、学びのなかでも教育の神髄をついた学びである。社会とのつながりを持って学ぶ、自分について学ぶことが大切。そのため、成績はなく、評価がつけられる。グループのなかでどのように振る舞ったか、社会性のようなものも評価の対象となる。特に、グループなど自分以外とともに学ぶということが非常に重要であると考えられる。
- 国民大学では多様なコースを提供している。当該国民大学では、失語症を持つ方々に向けたコースに加え、基礎教育、高等教育を受けることができ、大学入学資格を得ることも可能。大学入学資格を得るためには、スウェーデン語、英語、数学、社会などが必須教科となる。
- 国民大学では、最低1年間学ぶ必要がある。例えば、算数だけ1教科学ぶといったことはできず、複数教科を組み合わせて1年間通うことになる。
- 上記の1年間のコースのほか、例えば失語症の方に向けたコースなどの場合だと、単発的かつ評価もでないコースもある。なお、評価はでないが簡単な修了証は発行される。
- 当該国民大学の場合は、基礎教育や高等教育のような一般的なコースの提供をメインとしており、大学進学のための学習を多く提供している。ただし、金曜日は単発のコースを多く提供している。
- 大学進学を目標にしている生徒のほか、とりあえず高校卒業資格を目標にしている生徒も多い。スウェーデンにおいても、高校卒業資格があることによって、就職しやすい傾向がある。そのほか、人間としての成長だけを目的として通う生徒もいる。
- 当該国民大学では高校のコースをメインに通っている生徒が多く、その大半は不登校などで学校に通えなかった子、途中で退学した子である。そのような子たちは、国民大学に通って通常1年間のところ、2～3年かけて卒業することもある。また、鬱など精神的な不健康を抱えている子たち、身体的に理由があった子達もいる。そのほか、勉強に疲れて途中で社会に出たけれども学習したいと思いついた子や、外国籍の背景を持った子達もいる。
- 現在は対面のみでやっている。コロナ禍に一時的にリモートを行ったが、やはりグループでの学びを大切にしているため対面の方法に戻した。国民大学では、公園や美術館など、近隣地域の施設や自然を生かして学ぶのもポイントである。このような理由からも、対面での方法が適している。
- 奨学金などをCentrala studiestödsnämnden（通称CSN）から借りることが可能。

スウェーデンにおける 生涯学習について

スウェーデンにおける生涯学習に係るポイント

- ポイント① 国から運営費に係る補助金が支給されることで、安定的な運営が可能
- ポイント② 個人学習ではなく、グループ学習に重点
- ポイント③ プログラム内容を一方的に提供するのではなく、自身で学びたい内容を提案
- ポイント④ プログラム内容は幅広く対象

生涯学習に係る補助金スキーム・運営方法等について



国

補助金

デンマーク、
ノルウェー、
フィンランドでは補助
されていない



国民大学



カルチャー
センター



Folkbildni
ngsrådet
(国の国民
成人教育に
関する評議
会)

各団体への分配額を決定し、
補助

[団体数]

スウェーデン内に9団体（今後8団体となる予定）

[補助対象経費]

職員の給料、電気代、教材費、リーダー養成費等

[補助要件]

個人学習ではなくグループ学習を重点化（3人以上の活動を補助）

[年齢要件]

6歳から参加可能

[運営方法]

リーダー（16歳以上）による

[対象プログラム]

文化に係ることであれば幅広く対象
（カメラの撮り方を学ぶ会、イタリア旅行に備えてイタリアのことを話す会、
環境問題について話し合う会、歌を歌う会、聖書を学ぶ会（宗教活
動そのものは除く）など）

(イメージ)

カメラの撮り方を学びたい

→ 知り合いで同じ趣味の人がいないか募集

→ 3名以上揃えば事務局へ申請

→ 揃わない場合には事務局に相談、支援（広報等）

→ 講師が必要な場合には事務局が支援、助言

その他参考（カルチャーセンターに係る主なヒアリング内容）

【G団体】

- 自分から学ぶことがとても大事で個人の自由でもある。成績がつくわけではなく、自分自身を高めるため、自分が学びたいことを学ぶということが大事
- 聖書を学ぶ会、人生について学ぶ会、歌を歌う会、社会の様々な問題について話し合う会、移民難民の話をする会、劇、手工芸、イタリアに旅行したいのでイタリアのことを学びたいなど活動は様々
- 参加できるのは6歳から。リーダーは16歳からという法的な決まりがある。グループは3人から作れる。何かに興味がある人がいて、その人と同じ興味を持っている人がいれば、それが学びのグループになる。自分たちが大事だと思うことを活動にできる。
- スウェーデンのパーソナルナンバーを持っている人、スウェーデンの労働許可書を持っている人、難民の方はそのナンバーを持っている人など、スウェーデンのIDカードを持っていれば誰でも参加できる。
- リーダーは専門家である必要はなく、そのグループを組織していくルールが分かればよい。そのリーダー自身が何かを教えなくてはいけないということではなく、誰かを呼んで教えてもらうということもある。また、日時など、グループで集まって話し合いをしながら様々なことを決めるので、リーダーはいわゆる話をまとめる役割を務める。グループでディスカッションをするグループであれば、リーダーが中心となって、一人の人が話し過ぎないように気を利かすということも求められる。
- 参加者で一番多いのはおそらく30-50歳くらい。しかしながら、6歳から高齢者まで幅広い年齢層が参加している。
- 様々な人と一緒にグループで学ぶことができるというのが良さの一つ。大学教授もいれば、全く文字を読み書きできない人もいる。読み書きができない子は実地の経験をたくさん積んでいることが多く、一方で大学教授は知識をたくさん持っている。互いに教え合うような形で、共に学ぶことができる。鋭い質問をするのは割と読み書きができない人だったりもする。

その他参考（カルチャーセンターに係る主なヒアリング内容）

[H団体]

- 生涯教育の歴史的な背景は、社会活動・市民活動が盛んに行われた60-70年代に起源をもつ。労働者の権利の獲得や、アルコールを飲まない人たちの権利の獲得といった様々な市民社会活動につながった。そういった人たちの学びの場として、国民大学が生まれ、スタディサークルが生まれた。
- スタディサークルは、最低3人から、3回程度集まって、自由意思でできていること、そして学びの方法が民主主義的なこと。こうした条件が揃えばスタディサークルとなり、自分たちで興味をもったテーマを学べる。
- 生涯教育は、①民主主義的なこと、②生活状況を変えていくこと、社会参加できること、社会交流ができること、③教育格差を減らせること、④文化的な活動を増やせることが重要。補助金の配分方針が変わり、これまでの参加人数等の量に基づいた分配ではなく、直近3年間の事業計画内容等の質に基づき決定していくこととなった。
- （パズルに例えて、）仕事に行きつくためにはいくつかのピースが必要で、そこが埋まっていない人がいる。パズルのピースが外れている人は勉強する場、可能性だけ提示されてもそこにたどり着くことができない。自分を信じる、社会を信じる、誰かを信じることが大事で、それらを育てるためのスタディサークルや、国民大学が必要。周りの人が関わって、信頼関係を築くことが重要。
- 生涯教育は6歳から。キャリアアップには、仕事に関わる知識や経験が必要であるが、一方で仕事の終わりとともに生涯教育も終わるということではなくずっと学び続けるもの。仕事のキャリアアップにつなげるためには、生涯教育が必要。